

# WEBを活用したパーソントリップ調査に関する研究



都市研究部 都市施設研究室 室長 藤岡 啓太郎 主任研究官 吉田 純土

(キーワード) パースントリップ調査、WEBインターフェース、回答率

## 1. パースントリップ調査の現状と課題

パーソントリップ調査（以下、PT調査という。）は、昭和42年に広島都市圏で大規模に実施されて以来、全国各地において定期的な実施されてきた。PT調査が導入された当初は、調査員が調査対象者を訪問し、調査趣旨等を説明した上で質問票を配布する方法がとられてきたが、近年はコスト削減の観点から、主として質問票を郵送する方法がとられている。

しかしながら、郵送による配布が進む中で、回答率の低下や誤記、回答漏れ、サンプルの偏り等の増加が顕著になり、入力が簡便でより安価にサンプル収集が可能なWEBを用いた調査の実施が注目されている。そこで、国総研では新たにWEBインターフェース用の質問票様式を考案し、その公開を行った。

## 2. WEBインターフェース開発のねらい

WEBインターフェースを用いた調査票は既に一部の調査においては実施されてきたが、質問紙の構成を維持した状態で画面に表示しているものが多く、記入の煩雑さが解消されているとは言い難かった。そこで、国総研ではPC入力の長所を活かしつつ、高齢者等のPC操作に不慣れた回答者も容易に入力が可能で過去の行動を想起しやすい調査票を開発することとした。調査票は2種類を開発し、(1)「目的地先行入力型」は既存の質問票を基本に回答項目を入力しやすいように整理したものであり、(2)「ダイアリー型」は対象日の回答者の行動を想起しやすいように入力方法を設定しなおしたものである。

## 3. WEBインターフェース開発の概要

両形式のインターフェースは、入力項目ごとに順次、画面が展開する作りとなっている。交通行動の入力に関しては、対象日全体についての移動先とその滞在時間をまず入力した後に、移動手段等に関する

情報を入力することになるが、(1)目的地先行入力型は、入力項目毎に見た場合、従来の紙による調査票の記入と同じ要領で入力できるようになっているが、(2)ダイアリー型は、手帳に予定を記載する要領で、最初に生活行動とその活動時刻を入力し、活動間の移動に関する情報（位置、移動手段等）を詳細に入力する形式となっている。

両形式とも、時間の前後関係等に係る入力内容の矛盾や入力漏れについて随時メッセージが表示され、無効票が減少することを図っている。また、滞在地の情報については、所在地の文字入力のみならず地図上で指定も可能とし、記入者が場所のイメージを持ちやすいように工夫している。



図 地図上での目的地の入力

## 4. 今後の課題

本研究においては、質問紙に代わりWEBインターフェース上で回答を行う方法を開発したが、調査手法を代替することで、属性毎の回答率や回答時に想起されるトリップ数等に関して影響が生じることが指摘されている。今後、各PT調査の経年的比較、地域間の比較を行うために、調査方法の違いにより生じるデータ特性の相違を十分に把握する必要がある。特に既存の調査票と大きく異なる「ダイアリー型」については上記の点に留意すべきである。

### 【参考】

- 1) 国総研都市研究部都市施設研究室HP  
<http://www.nilim.go.jp/lab/jcg/index.htm>